

指導資料

生徒指導 第75号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

対象
校種

小学校 中学校
義務教育学校 高等学校
特別支援学校



これで分かる！「学校楽しいーと」の効果的な活用法 —分析・アセスメントの方法と教育的支援—

いじめや不登校，問題行動等の生徒指導上の諸課題は喫緊の課題となっており，いじめ防止基本方針においても「学校楽しいーと」等の質問紙を活用した児童生徒のアセスメント（実態把握）の重要性が明記されている。ここでは，「学校楽しいーと」の分析やアセスメントの方法，支援・指導につなぐための効果的な活用について提案する。

1 「学校楽しいーと」の概要

○ 「学校楽しいーと」で何が分かる？

児童生徒の学校適応感を6観点（「友達との関係」，「教師との関係」，「学習意欲」，「自己肯定感」，「心身の状態」，「学級集団における適応感」）から把握することができる。回答結果を分析することで，いじめや不登校，問題行動等の未然防止などを図ったり，適切な支援を検討したりしていくことができる。

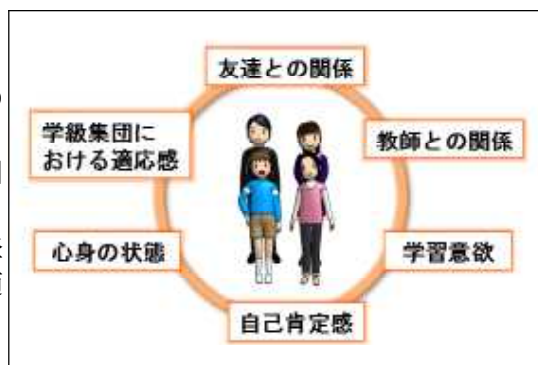


図1 学校適応感の6観点

○ 「学校楽しいーと」の内容は？

質問紙は，学校適応感に関する24項目（6観点×4項目）といじめに関する4項目の計28項目から構成されている。

質問紙は，児童生徒が自己評価をする方法で，小学校下学年用・上学年用，中学生用，高校生用がある。（回答時間は10～20分程度）

（質問項目一部）

3 学級の中にいると，明るく楽しい気持ちになる。
 とてもなる 4 _____ なる 3 _____ あまりならない 2 _____ 全くならない 1 _____

4 係活動や委員会活動での自分の仕事は，みんなの役に立っていると思う。
 とても思う 4 _____ 思う 3 _____ あまり思わない 2 _____ 全く思わない 1 _____

5 授業中に「できた」「わかった」と感じることもある。
 よくある 4 _____ ある 3 _____ あまりない 2 _____ 全くない 1 _____

図2 「学校楽しいーと」質問紙

※ 「学校楽しいーと」は，平成24年度に当センターと鹿児島大学が連携して開発した質問紙である。平成28年度にバージョンアップしたのが「比較用『学校楽しいーと』」である。いじめに関する4項目を追加し，3回分の回答結果が表示できるようにした。

「学校楽しいーと」質問紙，集計表等は，鹿児島県総合教育センターのWebサイトからダウンロードできるよ。



2 「学校楽しいーと」の活用

(1) 「学校楽しいーと」の個票・学級票

○ 「学校楽しいーと」の個票・学級票はどのように表記される？

児童生徒の回答を集計表に入力する。個人の回答結果は「個票」(図3)、学級全体の回答結果は「学級票」として見る事ができる。

比較用「学校楽しいーと」個票

項目	実施日	学年	2年	5月	18日
1回目	実施日	令和2年	9月	24日	
2回目	実施日	令和3年	2月	3日	

※ 個人ごとの回答結果は、この表に入力して集計表に入力する。

全体のバランスを表すレーダーチャート

※3回分を表示することができる。

回答を顔の表情と1~4の数字で表示

1回目	2回目	3回目
1 (Sad face)	2 (Neutral face)	3 (Happy face)
3 (Happy face)	2 (Neutral face)	1 (Sad face)

- 「4」の選択が最も望ましい状態である。
- 「心身の状態」と「いじめ」の観点の各項目は、回答と数値が逆転して表記される(回答が1の場合は、数値は4と表記)。

図3 「学校楽しいーと」個票

重要

いじめ項目の回答が1, 2の場合は、いじめが起きているので、学校全体ですぐに対応しましょう。

※ 学級票は各項目の平均値と度数分布が表示される。

(2) 「学校楽しいーと」の分析

○ 「学校楽しいーと」の個票は、どのように分析したらいい？

◆◆◆ 分析のポイント ◆◆◆

Point 1 学校適応感のバランス

Point 2 ストロングポイント (高いポイント)

Point 3 ウィークポイント (低いポイント)

Point 1 レーダーチャートから学校適応感のバランスに着目する。

図4 レーダーチャート

6観点の中で、大きな偏りや極端なゆがみなどが無い、本人の学校適応感のどの観点に、どのような特徴があるかを把握する。

- 「学校楽しいーと」は6観点のバランスが均等になるように統計処理をしている。レーダーチャートが極端に偏っている場合は、「○○の観点が悪い」という捉え方ではなく、「不適応のサインを出している」として理解する。

Point2 ストロングポイント（高いポイント）に着目する。

ストロングポイントは，“できている（努力している）ところ”である。児童生徒の強みであるため、支援の資源（リソース）として理解する。

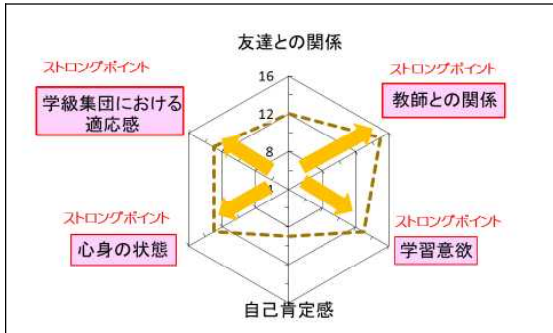


図5 レーダーチャートによるストロングポイント

- レーダーチャートで相対的に「値が高い」ポイントを示すストロングポイントから、どの観点に肯定的な自己評価をしているのかを把握する(図5)。



図6 項目によるストロングポイント

- 各観点の項目の中で、4、3と回答している項目はストロングポイントとして捉える(図6)。

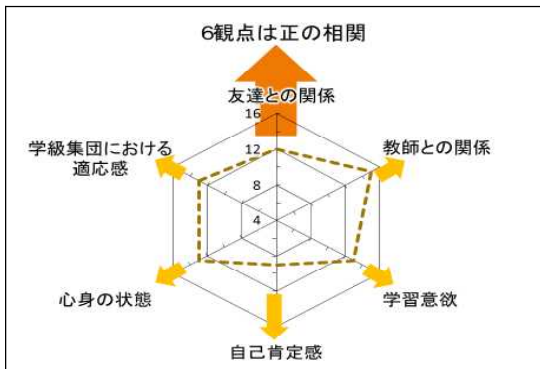


図7 6観点の相関関係

- 当センターの研究では、6観点は、正の相関関係が確認されている。一つの観点が高まると他の観点も高まる関係性にある(図7)。



Point3 ウィークポイント（低いポイント）に着目する。

ウィークポイントは，“困っているところ”であり、児童生徒を注意・指導するのではなく、どのような支援を必要としているかを考えることが大切である。

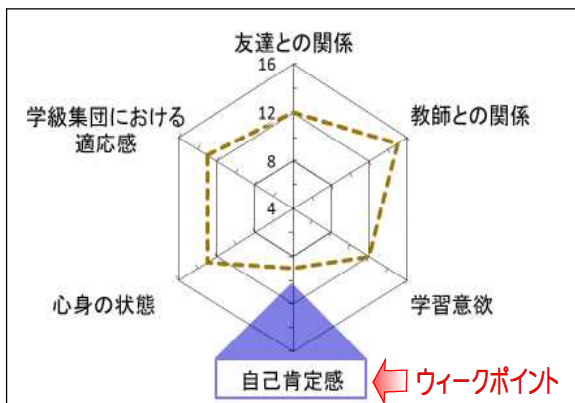


図8 レーダーチャートによるウィークポイント

- レーダーチャートで相対的に「値が低い」ポイントを示すウィークポイントから、どの観点に否定的な自己評価をしているのかを把握する(図8)。

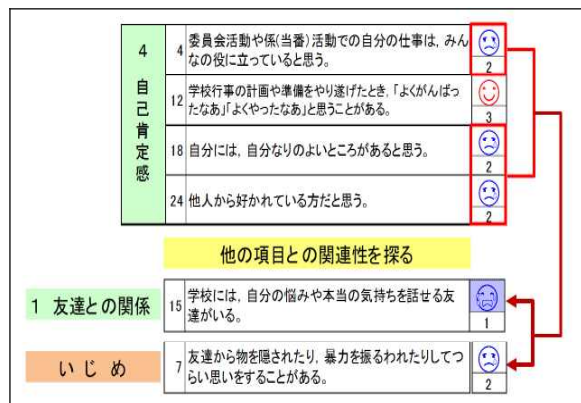


図9 項目によるウィークポイント

- 各観点の項目の中で、1、2と回答している項目はウィークポイントとして捉える。他の項目との関連性がないか探る必要がある(図9)。

3 「学校楽しいと」を活用した教育的支援

○ 「学校楽しいと」をどのように教育的支援に生かしていく？

児童生徒を支援・指導したり、学級経営の目標や具体策を設定するための資料，教育相談や児童生徒の変容を確認するための資料等として活用したりすることができる。

支援・指導を継続するためには、**検証改善サイクル（R-PDCA「Research(実態を調査する)→Plan(計画する)→Do(実行する)→Check(点検する)→Act(改善する)」**)を基準にして、年間を通して周期的に行い、改善を図りながら進めることで有効性が高まる(図10)。

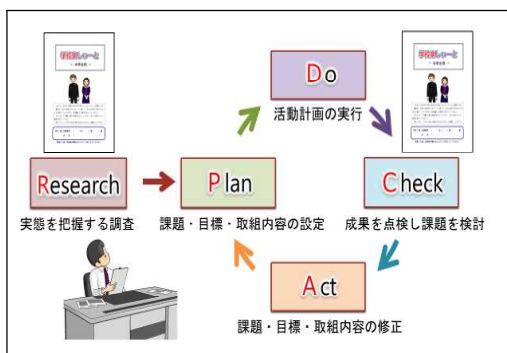


図10 検証改善サイクル (R-PDCA)

◆ 「学校楽しいと」を活用した事例

【事例1：生徒（児童）との教育相談（A校）】

「学校楽しいと」を実施した後に、教育相談をして生徒（児童）の状況を詳しく把握することにしています。

まず、ストロングポイントについて聞くようにしています。本人が頑張っている点なので、生徒（児童）はよく話をしてくれます。自分のことが認められたと感ずるようです。

それから、ウィークポイントについて一緒に考えるようにしています。

【事例2：学級の支援計画の策定（B校）】

学級票の「友達との関係」の値が低いことから、対人関係を深めるために朝の活動や学級活動で構成的グループエンカウンター活動をしたり、授業でペア・グループ活動の場を設定したりしています。

【事例3：個別の支援計画の策定（C校）】

気になる生徒について、個票を基に、生徒のアセスメントをして支援方針や具体策を立てています。学年部で事例検討会をすると先生方からいろいろな意見が出され、多面的に考えることができます。

4 おわりに

児童生徒は、「学校楽しいと」の結果を教師が見ることを前提に回答をしている。したがって「学校楽しいと」の回答結果は児童生徒からの”教師へのメッセージ”として受け止める必要がある。

児童生徒の心理的側面を把握できる「学校楽しいと」を有効活用することにより、いじめや不登校，問題行動等の未然防止や教育的支援につながっていくことを期待したい。

—引用・参考文献—

- 文部科学省「生徒指導提要」平成22年
- 鹿児島県総合教育センター『豊かな人間関係づくりに関する研究Ⅱ－「学校楽しいと」・「SNSチェックシート」等のアセスメントを通してー』平成31年，研究紀要
- 鹿児島県総合教育センター「学校楽しいと」平成28年
- 鹿児島県総合教育センター『「学校楽しいと」の活用事例』平成29年

(教育相談課 上西 由美子)